

谷の戸はけふ鹽さして蟹衣すそまの山に秋風ぞふく

三島野 二上の邊なり續拾遺秋の歌に前の内大臣

三島野のあさぢがうは葉秋風に色付ぬとやうづらなくらん

有磯海 通ひくる名のみありその浪千鳥よそに鳴つ戀やわたらん

多胡浦 早苗とる田子のうら人夏かけて苗代水に入江せくなり

菅の山 付リ木の葉の里 色染る木の葉の里の唐錦あらくなたちそ菅の山かせ

砥波山 此所に關所有之 妹が家にくものふるまひしらるらんとなみの關をけふ越くれば

卯花山 日影さす卯花山のおみころもたれぬぎかけて神まつるらん

藪波の里 やぶなみの里に宿かる春雨のこほりつらんと妹につげつる

劔峯 越路なる劔の峯もありそ海のおもひきるせのなどなかるべき

奈吳海 ながの海の汐のはやひにあさりにし出んとたづは今ぞなくなる

戀山 壹岐國に同名あり新勅撰戀のうたに

戀の山 玄げき小笹の露分て入初るよりぬる、袖かな

鶺鴒坂の松 儀浪山 志那濱 越の水海 二越山

〔延喜式 兵部 二十八〕諸國健兒 略 越中國 五十人

諸國器仗 略 越中國 略 征箭 廿具 胡籬 廿具

〔令義解 軍防 五 凡 略 中 資人 略 中 不得取三關及太宰部内陸奥石城石背越中越後國人

〔續日本紀 光 仁 三十六〕寶龜十一年五月丁丑勅曰機要之備不可闕乏宜仰坂東諸國及能登越中越後令

備備三万斛炊曝有數勿致損失

雜載

〔萬葉集 十七〕東風之安由乃可是伊多久布久良之奈吳乃安麻能都利須流乎夫禰許藝可久流見由